

令和2年度決算の概要

令和2年度の新潟市病院事業（税抜）は、事業収益257億8,802万円に対し、事業費用266億1,836万円となり、差引 8億3,033万円の純損失（赤字決算）となりました。期末時点における累積欠損金は50億1,147万円です。

本業の収支（医業収支）は、医業収益200億9,340万円に対し、医業費用246億5,674万円となり、45億6,334万円の赤字となりました。前年度から9億5,339万円悪化しています。その要因は、新型コロナウイルス感染症の影響による患者の減少、それに伴う減収です。特に入院患者数に大きな影響がありました。全病床利用率は、前年度から9.4ptの悪化となる75.0%となりましたが、病床利用率が80%を割ったのは、旧病院時代の昭和51年度に記録した77.9%以来、実に45年ぶりです。この結果により、入院収益は10億6,772万円の減となりました。

当院は、感染症指定病院として、そして、新潟県から新型コロナウイルス感染症患者の受入協力医療機関の指定を受けて多くの患者を受け入れてきました。それに関連した補助金等の収入（医業外収益）により、入院の減収もある程度は補てんされたのですが、黒字決算とはなりませんでした。

一方、感染症の終息が見えないなかで、未だに経営環境は厳しい状況が続いているものの、期末時点の内部留保資金保有額は90億円余り、流動比率は246.9%と、短期的支払い能力に大きな問題はありません。我慢の経営を続けて感染症にしっかり対応しながら、経営改善のチャンスを見逃さないように患者動向や収支の把握と分析に努めていきます。

